

放射性物質の水産生物等への影響について(平成24年1月18日現在)

◇◇ これまでのモニタリング調査で得られた傾向についてまとめましたので報告します。 ◇◇

<コメント>

福島第一原子力発電所の南側でかつ水深の浅い海域(エリア⑥)で数値が高くなっています。

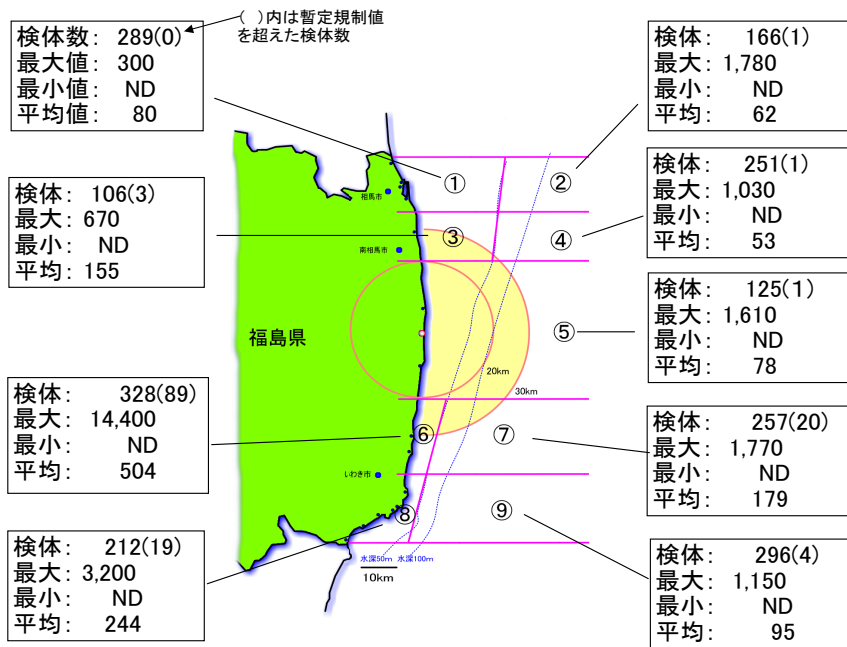


図1 魚介類のエリア別の検査結果概要(全魚種)

- * 数値は放射性セシウム134、137の合計値 単位 ベクレル/kg
- * NDは不検出
- * NDを0として平均値を計算

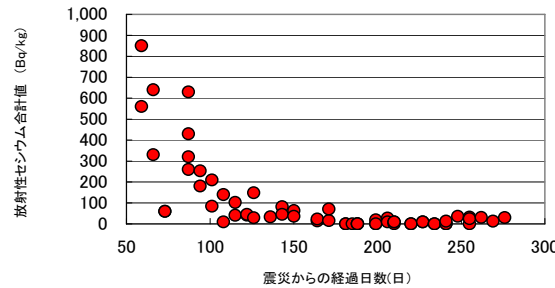


図2 カタクチイワシ(シラス)の放射性セシウム濃度(平成24年1月18日現在)

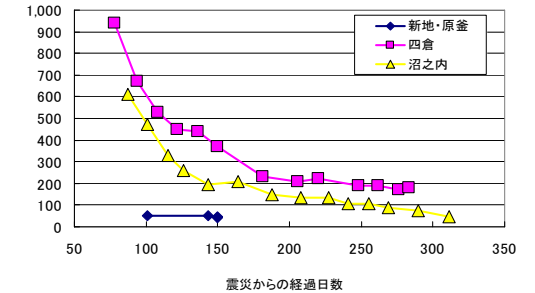


図2 ホッキガイの放射性セシウム濃度(平成24年1月18日現在)

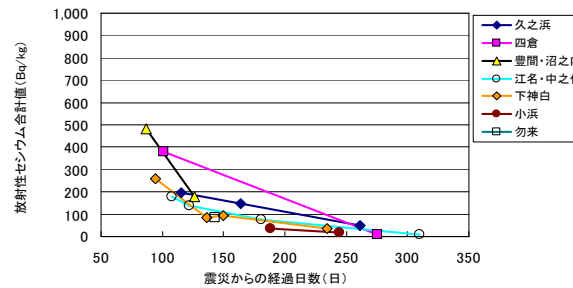


図3 アワビの放射性セシウム濃度(平成24年1月18日現在)

<コメント>

シラスやホッキガイ、アワビ等では数値が低下していますが、ヒラメのように多くの魚類では明らかな増減の傾向はみられていません。

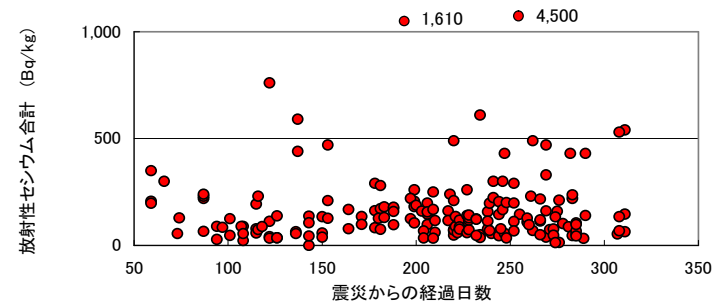


図5 ヒラメの放射性セシウム濃度(平成24年1月18日現在)